

授業コード	科目名	助産管理学実習			担当教員	島田友子、鶴巻陽子、阿部正子
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	前期	6	405		
1. 授業の概要						
<p>本実習では、助産所における助産業務の管理、運営の実際を学び、自律した助産師としての姿勢や援助のあり方を学習し、望ましい援助や管理システムの構築を追求する。また、助産所及び、地域の保健センター等で行う母子及び母子を取り巻く人々への援助の実際を学び、地域母子保健を支える実践力を身につける。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における助産師活動の実際を理解する。 2. 助産所の運営と管理、他職種と連携の実際を学び、助産所における助産管理の特徴を理解する。 3. 地域の周産期管理システムと連携方法を述べることができる。 4. リスクマネージメント、危機管理のあり方を考えることができる。 5. 地域における母子保健活動の必要性を理解し、必要なケアを考えることができる。 6. 開業助産師の高い理念や志を理解し、助産所開設に向けてのプロセスの演習を通して、自律した助産師の役割を考察する。 						
3. 授業計画と内容						
<p>【実習の進め方・方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健センターの実習は土曜日に行う。その際には、自己の健康状態に十分配慮し、休憩時間や代休日を確保する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 保健センター（1日） <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児相談の見学、乳児健診の見学と一部実施を行う。 ② 助産所（4日） <ul style="list-style-type: none"> ・ 助産所における助産管理・運営・経営の実際について理解し、実際の活動を見学する。 ・ 開業助産師の地域での活動を見学（訪問業務は、新生児・妊婦・褥婦、集団活動は、育児サークル・各種学級など）する。乳房管理など、可能なケアを実施する。 ・ 助産所開設に向けてのプロセスを演習し（関係する法律、届け出方法、施設の理念・方針、組織、業務体制、安全・災害対策、経費バランスシート）、発表を実施し、学びを深める。各実習施設に向き、目標達成のために自ら進んで実習に取り組む。 						
4. テキスト・参考文献						
<p>助産学講座1 基礎助産学1 助産学概論 我部山キヨ子・武谷雄二編集 医学書院 2016 この他の参考図書は、随時紹介する。</p>						
5. 準備学習						
<ul style="list-style-type: none"> ・ コースガイダンス時に資料を配布するので、確認しておくこと。 ・ 各実習場所における自己の到達目標は、事前のオリエンテーション時に担当教員の助言のもと準備をする。 ・ 授業の計画と内容に沿って、予習しておくこと。 						

6. 成績評価の方法
レポート(60点) 実習記録、実習評価表の到達度、実習への取り組み・活動状況(40%) 合計 100%
7. 履修の条件
「助産学概論」「助産ケアと倫理」「沖縄のケアリング文化と女性」「助産管理学」を履修していること。
8. その他 : 特になし

授業コード	科目名	国際母子保健学			担当教員	島田友子、タン・エンハイ
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	研 405	月 5 限、水 1 限	
1. 授業の概要						
<p>国際化の波は、病院にも波及し、生産年齢人口の外国人女性、その家族に出会うことが日常的になってきている。この科目では、日本語の理解が不十分な対象者に対してどう対応していけばよいか、英語と中国語という言語の視点から、妊産褥婦に病院内でおこりえるシュチュエーションごとに、読み・聞き・話す・書く体験を通して国際的視野を培う。また、演習を通して、外国人妊産褥婦だけでなく、日本人妊産褥婦への対応を考察する機会になる。もう一方で、国際母子保健に関わる国際機関、政府関係機関、JICA、NGO の役割および看護・助産分野における国際協力のあり方について学習する。諸外国と日本との比較から、日本の現状と課題を理解していく。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の課題を持ち英語・中国語に親しめる。 2. 病院内での妊産褥婦への対応に必要な英語・中国語表現の修得ができる。 3. 異文化コミュニケーションを迫られた時に惑わない能力の養成ができる。 4. コミュニケーションの種類、方法について工夫することの必要性を理解できる。 5. 国際母子保健の基本的知識について理解する。 6. 諸外国における保健医療サービスや助産システムおよびケアの特徴を理解する。 7. 日本と諸外国との比較から、日本の母子保健を支える助産ケアのあり方と課題を考察できる。 						
3. 授業計画と内容						
<p>Chapter 1 Introduction この講義の進め方、内容・評価法などの説明、学習の仕方などについてオリエンテーション 諸外国の母子保健活動、海外在住日本人、在日外国人の母子保健</p> <p>Chapter 2, 3 講師から見た外国での出産と日本の出産の現状について(ミニ講義) (タン・エンハイ) 妊婦健診、問診、検査に関するロールプレイなどを通して演習(英語・中国語) 振り返り</p> <p>Chapter 4 諸外国の母子保健活動、JICA、NGO の役割事前学習</p> <p>Chapter 5-6 国際母子保健に関わる国際機関、政府関係機関、JICA、NGO の役割および看護・助産分野における国際協力のあり方について (タン・エンハイ)</p> <p>Chapter 7-8 分娩時に関するケア、ロールプレイなどを通して演習振り返り JICA 研修に向けて文献検討</p> <p>Chapter 9-14 講師から見た外国での出産と日本の出産の現状について 諸外国と日本との比較から 海外での助産師活動を通して</p> <p>Chapter 15 諸外国と日本との比較から、日本の現状と課題検討、まとめ</p>						
4. テキスト・参考文献						
<p>我部山キヨ子編「助産学講座 9 地域母子保健・国際母子保健」第 5 版、2016。 この他の参考図書は、随時紹介する。</p>						
5. 準備学習						
講義に関する内容を予め参考書を読み予習する。						
6. 成績評価の方法						

・事前レポート(30%) 事後レポート(60%) 授業貢献度(10%) 合計100点
7. 履修の条件
特になし
8. その他
講義場所は大学外で行う場合がある。事前に連絡します。

授業コード	科目名	母子の癒し援助論 The Theory of Healing Assistance of Mother and Child			担当教員	鶴巻陽子
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー	
1	1	通年	6	2	水：11時～12時、金：17時～18時	
1. 授業の概要						
<p>リラクゼーションの理論と実際を学び、助産実践の場でリラクゼーションテクニックを生かす。自然治癒力高め、心身の緊張をほぐすホリスティックケアとして、周産期に用いられる安楽法やリラクゼーション法（アロマ、タッチケア等）について学び、周産期の疼痛、不快緩和方法を習得する。東洋医学を用いた補完代替医療に関する母子への効果についても学習する。実技ではリラクゼーションを体験し、理解を深める。</p> <p>本科目は、講義・演習（グループワークを含む）科目である。</p> <p>本科目は、実務経験のある学外講師/非常勤講師が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。オムニバス形式となっている。</p>						
2. 到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> ホリスティックケアの概念を理解し、癒しの効果について説明できる。 妊娠期・分娩期・産褥期にリラクゼーションテクニックを身につける。 助産援助に効果的な方法を理解し、説明できる。 						
3. 授業計画と内容						
<p>* ____は演習室に畳の準備をする講義になります</p> <p>第1回(4/12) オリエンテーション 鶴巻</p> <p>〈授業形式：講義〉 事前学習：助産学講座3「母子と補完療法」について目的の確認をする</p> <p>第2回(4/15) アロマセラピー ハーブ 理論・実践（具志堅）① 学外講師/鶴巻</p> <p>〈授業形式：講義〉 アロマセラピーについて学ぶ。</p> <p>第3～4回(4/17) <u>ベビーマッサージ理論と演習（定岡）①②</u> 学外講師/鶴巻</p> <p>〈授業形式：講義・演習〉 ベビーマッサージが母児に与える影響、タッチングの理論について理解を深め、手法を学ぶ。マッサージ手法を演習室に畳を準備する。*実習室に畳を準備すること</p> <p>第5回(4/22) アロマセラピー ハーブ 理論・実践（具志堅）② 学外講師/鶴巻</p> <p>〈授業形式：講義・演習〉 アロマセラピーの効能とエッセンシャルオイルについて知識を得、ハンドマッサージを実施する。</p> <p>第6～7回(4/24) <u>ベビーマッサージ理論と演習（定岡）③④</u> 学外講師/鶴巻</p> <p>〈授業形式：講義・演習〉 人形を用いて、ベビーマッサージを実施する。</p> <p>*実習室に畳を準備すること</p> <p>第8回(5/9) <u>マタニティヨガ（又吉）①</u> 学外講師/鶴巻</p> <p>〈授業形式：講義・演習〉 マタニティヨガの意義について、ヨガがもたらす効果について理解し、マタニティクラスで実践しているヨガを体験する。</p> <p>*実習室に畳を準備すること</p> <p>第9～11回(5/15) <u>タイ古式マッサージ・ストレッチ・身体を整える（富川）①②③</u> 学外講師/鶴巻</p> <p>〈授業形式：講義・演習〉 指圧とストレッチにより、筋肉疲労を軽減させる手法について学ぶ。ストレッチを行うことにより、自身のセルフストレッチに役立てることで、体の歪みを矯正する方</p>						

法を学ぶ。 *実習室に畳を準備すること

第12回(5/20) アロマセラピー ハーブ 理論・実践(具志堅)③ 学外講師/鶴巻

〈授業形式:講義・演習〉 アロマセラピーの効能とエッセンシャルオイルについて知識を得、ハンドマッサージを実施する。

第13回(6/6) マタニティヨガ(又吉)② 学外講師/鶴巻

〈授業形式:講義・演習〉 マタニティヨガの意義について、ヨガがもたらす効果について理解し、マタニティクラスで実践しているマタニティビクスを体験する。

*実習室に畳を準備すること

第14回(5/9) マタニティヨガ(又吉)③(6/13) 学外講師/鶴巻

〈授業形式:講義・演習〉 マタニティヨガの意義について、ヨガがもたらす効果について理解し、マタニティクラスで実践しているヨガを体験する。*実習室に畳を準備すること

第15回・16回(7/3) まとめ レポート発表 鶴巻

4. テキスト・参考文献

辻内敬子, 出産準備教室東洋医学を取り入れた妊婦さんの体づくりとセルフケア, 医歯薬出版, 2012
助産学講座3, 母子の健康科学, 医学書院, 2017
無痛分娩を含めた産通緩和ケア, ペリネイタルケア, メディカ出版, 2016vol. 35

5. 準備学習

助産学講座3, 母子の健康科学, 医学書院, 2017の関連する内容を読んでから参加すること

6. 成績評価の方法

・レポート①②	100点
合計	100点満点

レポート①「癒し援助論で学んだリラクゼーション技術を助産ケアでどのように活用するか・
実習終了後に②「癒し援助論で学んだリラクゼーション技術を助産ケアでどのように活用したのかを
A4 2枚にまとめなさい」

7. 履修の条件 :

*助産ケアとしてスキルを習得するためには普段からケアを実践していく必要があります。よりよいケアが提供できるように日常生活の中に取り入れてください。

*シラバスは授業の進行状況により、変更することがありますので、あらかじめご理解下さい。

授業コード	科目名	助産学研究			担当教員	島田友子、鶴巻陽子、 木村堅一、木村安貴、永島すえみ、五十嵐稔子、阿部正子
単位数	受講年次	開講学期	登録人数	研究室	オフィスアワー:月5限、水1限	
2	1	通年	6	研405	mail:shimada@meio-u.ac.jp	
1. 授業の概要						
<p>1. 助産師教育での研究のねらいのひとつには、修了後、助産実践の向上のために、日常の助産実践のエビデンスを明らかにできることである。そのために文献を批判的に読み、物事を客観的・論理的・科学的にとらえ、分析できる能力を獲得する必要がある。さらに自分なりの学習方法を身につけ主体的に学習できることも重要である。そして専門職として研究実践ができる基盤づくりをしたい。そのために、研究の基礎的な理論を再学習していく。1-14回では、①周産期に関連した文献検討を通じて、ケアのエビデンスや知見を得る。②文献を実際にクリティークすることで、研究活動における文献の活用に関する直接的に役立て、文献を批判的に読むということについて理解を深める。③研究の基礎的な理論としての量的研究、質的研究を再学習し、助産実践の改善・向上を図るための基礎学習をしたい。研究方法では、研究のプロセスを理解し、研究計画書作成として、個人で助産領域の関心あるテーマを考え、研究方法をイメージし研究の可能性を考えていく。この学習を基礎として15-30回の助産学研究の実際では、受け持ちをした継続事例の助産過程を振り返り、助産実践上の問題点・課題を明確にし、成果を実践に役立てることを認識していく。事例研究は、複雑で多くの要因を含む過程を扱うわけだが、その全体を扱うことを強調する立場と、特定の部分を切り取って扱う場合がある。その程度は変わっても、事例研究においては、個別事例を具体的に研究しつつも、そこから一般性を抽出することが重要であるとし、そこに向けて研究的視点で考察を深めるプロセスについて学習する。</p>						
2. 到達目標						
<p>1) 周産期に関連した文献検討を通じて、ケアのエビデンスや知見を得る。 2) 研究の実際を通して、ケアのエビデンスや知見を得る。 3) 研究のプロセスをたどることができる。</p> <p>① 事例研究の意義と研究方法について理解する。 ② 文献クリティークの視点を述べるができる。 ③ 分娩期を中心とした助産実践を研究的視点で多角的に分析・解釈できる。 ④ 研究論文が作成できる。</p> <p>4) ケアの妥当性・課題を明確にできる。</p>						
3. 授業計画と内容						
第1回	オリエンテーション 科目の概要、学習目標、講義日程、学習内容、評価方法、課題、推薦図書、学習の準備、オフィスアワーの活用法等を理解する。論文作成にあたっての説明					
第2回～5回	文献検討(英文抄読) THE DOULA BOOK 多くの臨床研究データとともに紹介している周産期に関連した文献検討を通じて、ケアのエビデンスや知見を得る。					
第6回～7回	文献検討、事前課題の先行研究のクリティーク					
第8回～9回	研究の実際(量的・質的)と援助方法を知る。					
第10回	研究とは 研究発表方法 パワーポイントプレゼン資料の作成方法					
第11・12回	研究のプロセス 研究の目的と研究のプロセスの実際について、量的研究とは					
第13回～14回	女性が主体的に新しい命を迎える出産環境や看護の探求として 「妊婦による出産施設・出産スタイルの選択」等の研究について研究の実際(量的・質的)と援助方法を知る。					

第 15 回	事例報告論文計画書・抄録作成	計画書・抄録作成の方法	発表の仕方について
第 16～28 回	事例論文作成		
第 29、30 回	まとめ、ディスカッション、評価、全体の振り返り		
4. テキスト・参考文献			
我部山キヨ子他編「助産学概論 第5 版」(助産学講座1) (医学書院、2016年) この他の参考図書は、随時紹介する。			
5. 準備学習			
文献検討では、必ず文献を読み、課題を提出する。			
6. 成績評価の方法			
・論文 80% 文献検討、文献発表、授業に対する貢献度 20% 合計 100 点			
7. 履修の条件：特になし 8. その他 3 月に成果を発表する。			